

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～夏季の飼育管理～

牛舎で送風機を利用する場合は、牛体に風が直接当たるように設置する。飲水設備は常に清潔にし、十分な水量を確保する。暑熱による採食量の低下を防ぐため、夜間の涼しい時間帯に給与量を増やすことも効果的である。TMRを給与する場合は、2次発酵による嗜好性の低下を避けるため、少量を複数回に分けて給与する。

◇ 肉用牛 ～夏季の飼育管理～

暑熱による採食量の低下を防ぐため、飼料の給与回数及び夜間の給与量を増やす。飼料や水が変敗しないように、飼槽や水槽は常に清潔にする。また、牛舎内の資材は片づけるなどして、通風を妨げないようにする。

◇ 豚 ～夏季の飼育管理～

窓の開放や送風機などにより、豚舎内の換気と温度管理に注意する。ただし、子豚には送風機などの風が直接当たらないようにする。種雄豚との交配はできるだけ涼しい時間帯に行う。

◇ 鶏 ～夏季の飼育管理～

鶏舎の風通しを良くするとともに、舎内への水の細霧や日よけの設置などを行う。また、採食量の低下を防ぐために、夜間に点灯して給餌を行うことも効果的である。

◇ 草地・飼料作物 ～2番草の収穫と草地更新～

- 2番草の刈遅れは、収量及び品質の低下につながるため、刈取適期を逃さないよう注意する。
- 計画的に草地更新を行い、生産力の回復に努める。更新前には土壌診断を行い、その結果に基づいた土壌改良を行う。



報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 総括主幹 山田 健司
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 山田 泉 内線 4966